

第23回「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール

—表彰式・プレゼンテーション—

日時 : 平成26年3月20日(木) 13:00 ~
場所 : 大阪府咲洲庁舎 23階 中会議室



主催 : 大阪府・公益社団法人 大阪府建築士会・大阪府住宅供給公社
審査委員長 大坪 明 (武庫川女子大学 生活環境学部 教授)

受賞者一覧(敬称略)

グランプリ	水口 伸一郎	大阪建設専門学校	2年
準グランプリ	井上 祥生	大阪市立都島工業高等学校	3年
優秀作品賞	松本 由衣 久留島 裕也	大阪工業技術専門学校	3年
優秀作品賞	前川 文洋	大阪府立北大阪高等職業技術専門校	1年
佳作	大西 彩斗	大阪府立布施工科高等学校	3年
佳作	野口 綾子	修成建設専門学校	1年
佳作	小森 都雄	大阪工業技術専門学校	1年
奨励賞	牧野 純希	大阪工業技術専門学校	2年
奨励賞	高田 匡志	修成建設専門学校	1年
奨励賞	三島 僚介	大阪建設専門学校	2年

【表彰式】

13:00 開 会

13:05 開会挨拶

13:10 表彰 受賞 10 賞 (11 名)

13:25 閉 会

13:30 記念撮影

【プレゼンテーション】

14:00 開 会

主催者代表開会挨拶
来場者紹介
・受賞者 自己紹介
・審査委員 挨拶

14:15 プレゼンテーション (1人11分 × 6作品)

(発表：5分、質疑：5分、入替え1分)

15:20 休 憩

15:35 プレゼンテーション (1人11分×4作品)

(発表：5分、質疑：5分、入替え1分)

16:20 審査講評

審査委員長 大坪 明 (武庫川女子大学 生活環境学部教授)

16:35 閉 会

— 受賞者の声 —

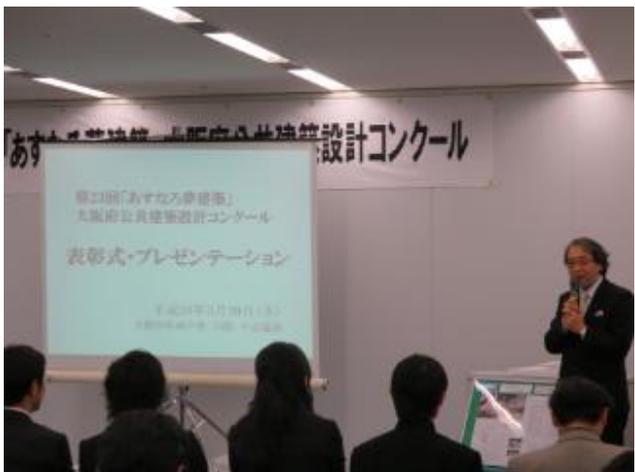
グランプリ	水口 伸一郎	大阪建設専門学校 2年
<p>建築の経験はなく、大工の見習いをやっていました。 専門学校にいて、今回コンクールに応募しましたが、 受賞となり、私自身驚いています。</p>		
準グランプリ	井上 祥生	大阪市立都島工業高等学校 2年
<p>名誉ある賞をいただけて非常に光栄に思っております。 僕にとっては学生生活最後の設計コンペでしたので、最後をかざるのに ふさわしい作品を残そうと思い、コンクールに臨みました。 本コンクールで自分の考え方や改善すべき点など、これから先、建築をつ づけていく中でとても重要な事に気づかされたと感じております。 グランプリには届かなかったものの、自分にとっても非常にためになるコ ンクールであったと思います。 今回のこの経験を生かして建築界に貢献できるような存在になりたいと思っています。</p>		
優秀作品賞	松本 由衣 ・ 久留島 裕也	大阪工業技術専門学校 3年
<p>専門学校で 3 年間学んだことの集大成としてこのコンクールに 臨みました。 2人で何度も話し合い突き詰めていったので、とても思い入れの 強い作品になり、受賞の知らせを受けたときは本当に嬉しかったです。 2人共、4月から建築設計職に就く予定になっているので、 今回の受賞は大きなステップとなりました。 今後も勉強を重ねてどんどんステップアップしていきたいと思っています。</p>		
優秀作品賞	前川 文洋	大阪府立北大阪高等職業技術専門校 1年
	<p>今回、自分の作品が入選できた事は何よりの喜びですが、 課題の発表から提出〆切まで自分や友人、先生方の意見を集約し 形にする過程がとても楽しく、また勉強になりました。 これを励みにし、今後の仕事や提案活動に繋げていきたいと思っています。</p>	

佳 作	大西 彩斗	大阪府立布施工科高等学校 3年
 <p>先生がやってみないかと声をかけてくださり、建築事務所に就職も決まっていたし、自分なりに住宅など設計するのがおもしろくて、この機会にやってみようと思いコンクールに出ました。</p> <p>いざやってみると、そう簡単にはうまくいかず、ものすごく悩みました。将来は2級建築士の資格を取るのので、とてもよい経験になり、学ぶこともでき、自分的にも成長できたと思います。</p> <p>入賞したら図書券をもらえるということで、少し欲しいと思いつつ、今回佳作を頂いてとてもうれしかったです。このような賞を取ったことはあまりなく、高校生活にいい思い出になり、出場してよかったです。</p>		

佳 作	野口 綾子	修成建設専門学校 1年
<p>このたびは、佳作という賞を頂き、大変うれしく思っております。</p> <p>建築の勉強をして、まだ数か月という私には、コンペの課題や条件を満たすのに精一杯でしたので、大変驚いております。</p> <p>人前で話すのは大の苦手なので、プレゼンテーションの機会を頂いたことは、正直、困りました。</p> <p>しかし、この機会に自分の設計を改めて、見直すことができましたし、今の自分の精一杯のプレゼンをしたいと思っております。</p> <p>また、他の入賞者のプレゼンも楽しみにしております。</p> <p>入賞したポイントや感想、評価を、プレゼン当日に聞くことが出来れば、有難いと思っています。</p> <p>そして、これからの設計に生かしていきたいと思っています。</p> <p>本当にありがとうございました。</p> <p>(受賞コメントはプレゼンテーション以前に頂いています。)</p>		
		

佳 作	小森 都雄	大阪工業技術専門学校 1年
<p>私はあすなろ夢建築に応募するにあたって受賞するなど全く思っていませんでした。</p> <p>自分がどれだけできるのかみてみたいとおもい全力で取り組みました。締め切りのギリギリまで悩み試行錯誤を繰り返してきました。</p> <p>なので佳作に選んでいただいた時は喜びと驚きで言葉が出ませんでした。</p> <p>自分は障がい者と関わることが多いので車椅子利用者のことを考えて設計しました。</p> <p>これからも障がいをもっているひとのことを考えた設計をして行こうと思っています。</p>		
		

奨励賞	牧野 純希	大阪工業技術専門学校 2年
	<p>この度「奨励賞」という名誉ある賞をいただきありがとうございました。結果を聞いたときは正直、手が震えました。</p> <p>この作品は、指導してくださった先生方や同じ学科の友達と関わった人がたくさんいて、私の中でも心に残る作品です。建築の勉強は2年目になり、その集大成として取り組んだ作品が評価され、今後の自信にもつながります。しかし、上位の入賞者にはまだまだかきません。何が足りなかったのか、どこを考えなおすべきか、反省しながら次に活かします。将来の夢は自分の設計事務所を設立し、私が設計する建築で人を幸せにしたいです。この夢は、小さい頃から変わっていません。常に目標を掲げ、地道な努力で毎日成長していきます。ありがとうございました。</p>	
奨励賞	高田 匡志	修成建設専門学校 1年
<p>奨励賞として素晴らしい賞をいただきありがとうございます。</p> <p>建築学を専攻し多くを学び、吸って吐いて日々反復呼吸し自己の知識として統合させることに追われる毎日ですが、学校で学んだことを最大限アウトプットするいい機会になりました。</p> <p>それが入賞という結果につながったことは自分自身を誇らしく思うとともに自己の方向性に少し自信が持てました。</p> <p>他の方の作品からも自分にはない感性を感じることができ、今後もより一層自分らしいスピード感溢れる成長をしていきたいと思えます。</p>		
奨励賞	三島 僚介	大阪建設専門学校 2年
<p>このたびは、応募作品 190 点の中から奨励賞に選んでいただき、大変嬉しく、光栄に思います。</p> <p>今回応募した作品は、今まで私が作ってきた中で一番完成度の高い作品でした。</p> <p>建物の形や配置計画など難しかったり、色々悩んだりしましたが、私はこの分野がとても楽しく思います。</p> <p>学生生活の最後にこのような成績を収められたのは、たくさんの知識を教えていただいた先生方のおかげです。ありがとうございました。</p>		



第23回「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール プレゼンテーション発表一覧

発表順	賞名	タイトル	作品番号	氏名	学校名	学年	プレゼンのツール
①	奨励賞	記憶の集まり	2-324	みしま りょうすけ 三島 僚介	大阪建設専門学校	2	PPT、模型
②	奨励賞	光の中に腰かけて…	2-116	たかだ まさし 高田 匡志	修成建設専門学校	1	PPT、模型
③	奨励賞	よりみち Living	2-1	まきの じゅんき 牧野 純希	大阪工業技術専門学校	2	PPT
④	佳作	つながる動線	2-170	こもり くに 小森 都雄	大阪工業技術専門学校	1	PPT
⑤	佳作	CUBE	2-123	のぐち あやこ 野口 綾子	修成建設専門学校	1	PPT、模型
⑥	佳作	金の集会所	1-26	おおにし あやと 大西 彩斗	大阪府立布施工科高等学校	3	PPT
⑦	優秀作品賞	風と光の集会所	2-287	まえかわ ぶみひろ 前川 文洋	大阪府立北大阪高等職業 技術専門学校	1	PPT
⑧	優秀作品賞	みんなが集うところ	2-164	まつもと ゆい 松本 由衣 くるしま ゆうや 久留島 裕也	大阪工業技術専門学校	3	PPT
⑨	準グランプリ	象徴としての間仕切り	1-8	いのうえ よしき 井上 祥生	大阪市立都島工業高等学校	3	PPT
⑩	グランプリ	広場とつながった明るい集会所	2-329	みすぐち しんいちろう 水口 伸一郎	大阪建設専門学校	2	PPT、模型

奨励賞

記憶の集まり

大阪建設専門学校 2年

三島 僚介



【発表】

- 周辺の人に集ってもらいたいと思い、形から考えた。昔からの伝統的な建物と団地の繰り返しにより、建物が重なるように、過去の記憶とこれからの思い出が集まるような場所にしたかった。
- 団地の東西方向の他に、南北方向に人の動きが存在する。南北方向にリズムを与えるように、フレームを配置し、周辺の建物のシンボルとなるようにした。
- フレームの形は、切妻にすることで家の集まりのようになり人が集まりやすいようにした。フレームを外に出すことにより、内部に柱がなくフリーな空間となり、各部屋を広く使える。
- 集会室を囲むようにテラスを設け、天気の良い日には第二の集会室にもなり、内外のコミュニティ形成が期待できる。
- テラス上部には可動式のルーバーを設けているので、日差しを遮ることができる。
- 集会室上部のフレームの間にハイサイド窓を設け、光・風が抜けるようにした。
- 去年のコンクールにも応募し、設計や模型を作る中で、次のコンクールにも応募したいと思った。今年は卒業設計との並行で大変だったが、受賞はうれしく、今後も頑張っていきたい。

【質疑応答】

(大坪委員長)・団地の配置とフレームとの関わりについて補足してください。

(三島さん)・周辺の地図をみて、建物がすごくきれいに並んでいると思った。

色んな案が出た。建物の軸も横に入れる、格子状の案など。格子だと、固いイメージだったので、メインの人の動きの南北方向だけにした。

(大坪委員長)・人の流れであれば東西方向もある。南北の軸を中心にしたのはなぜか。

(三島さん)・建物も東西方向なので、横方向にもいれてしまうとかぶってしまう。

(大坪委員長)

- 設計において、飛躍・思いつきは大切。今回のその思いつきは素晴らしいこと。
- しかし、周りにどんな建物が配置されているかを含めて建物配置を考えてほしい。集会所の中のアクティビティを外にもみせるようなプランだとなおよかったと思う。

(平田委員)

- リズム感がテーマということで、それがフレームに活かして楽しいものになっている。
- 集会室外部にデッキをまわし、内外が一体に使えるということによりよい提案だと思う。

奨励賞

光の中に腰かけて…

修成建設専門学校1年

高田 匡志



【発表】

- 機能面はもちろんだが、デザイン面で愛されるデザインを考えていた。
コンセプトにストーリーを持たせ、そのストーリーをデザインする。たくさんの人が光の中で腰をおろして安らげる椅子をコンセプトとした。
光は、人々の笑顔につながる、イスは場所を差し、パーソナルスペースと考えている。
- 建物の名前をつけた。bridge + chair = “bridgeir”
ブリッジは人々のつながり、チェアはそのつながりを促す場所を意味している。
コンセプトやストーリーを躯体で表現したいと思い、シンボリックなデザインとなった。
- 利用する人だけが集まるのではなく、周辺の人々も集まるようにしたかった。
集会所の周りにコミュニケーションスペースを設けて、集合住宅群と集会所の境界を調和させる働きとなるようにした。
- コミュニケーションスペースは、オープンなスペースとクローズなスペースを設けた。
- ルーフ部をパーゴラにし、光が落ちて開放的な空間にしようとした。
- 室上部を開口部とし、人と人とのつながりを感じられる空間にできるのではと思った。
- 材料による視的効果として、重厚感のあるコンクリートと温かみを感じられる自然柵を使用。
- 躯体構造は4基の壁を設け、剛性を持たせるために梁を設け、壁を接合することとした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 建築を始めて1年でこの作品ができるのはすばらしい。
- 屋根を支えるブリッジを独立でつくったことが大きな特徴となっている。この規模の建物にこの構造は大げさかもしれないが、この形を構造体としたことが奨励賞の受賞に値する。
- 構造体をもっと強調するためには、ブリッジの部分はもっと独立させてほしい。
- 他の部分でも色々なところへの配慮がされている点もすばらしい。
たとえばパーゴラにより西日対策もできる。

(平田委員)

- 構造体が特徴的だと思う。内装と分けてメリハリをつければ違った面がでてくると思う。
- 木の優しさを活かした半屋外のコミュニケーションスペースもいい提案だと思う。

奨励賞

よりみち Living

大阪工業技術専門学校 2年

牧野 純希



【発表】

- ・タイトルの「よりみち Living」は、誰でも気軽に利用していただきたいということからつけた。「よりみち」は予定しているものではなく、ぱっと思い浮かんで、とっさに動いてしまうようなもの。気軽に立ち寄りたくなる、そういう建物にしたいと思った。
- ・テーマは、「みんなが気軽に立ち寄りたくなる場所」とし、それを達成するために2つのことを考えた。1つめは上からの視線と下からの視線、2つめはふれあいリビングの開放性。
- ・上からみた視線として、周辺の団地は14階建ての高い建物なので、それを利用して視線を楽しめたらいいと考えた。デッキの屋根の開口部には、ガラスが入っている。
- ・建物に対するアクティビティとしては、広場からも、団地の通路からも入れる、どこからでも入れるようにした。
- ・ふれあいリビングのデッキはデッキテラスのような使われ方を想定している。一方で、小さなデッキ部分は、通路や縁側的な使い方がされるようにした。
- ・南面に大きな窓を設けて採光とれるようにした。
日陰を考慮して、15時の日陰の位置を考慮し、15° 建物をふっている。
- ・上からは曲線でかわいらしい雰囲気、一方で横からは雁行形で建物の色んな表情がみえる。
- ・アトリウムは木漏れ日をイメージし、やわらかな光が入るように設計した。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- ・木漏れ日が入る半屋外空間が魅力的。そこに人をいざなうというコンセプトがよい。
- ・残念なのは、南北方向と東西方向の主要な団地内通路が交わる交点の部分に対して集会室が向いていない点。倉庫があることで、人の活動が見えない。
- ・半屋外空間が魅力的だが、部屋が分断されていて、一つ一つの部屋に鍵が必要。運営する側にとってはネックとなる。そういうことも考えて今後活かしてほしい。
- ・南東側のオープンスペースはどれだけ魅力的な空間になるかも考える余地がある。

(平田委員)

- ・曲線を活かして柔らかい親しみやすい建物になっている。デッキスペースもよい。

(来場者)・半屋外のふれあいリビングの部分は床面積に入っているか。

(牧野さん)・床面積にカウントしている。

(大坪委員長)・先ほどの高田さんの作品はルーバーで屋根でないので床面積に入らない。

佳作

つながる動線

大阪工業技術専門学校 1年

小森 都雄



【発表】

- ・集会所は色々な人が使うので、車いす使用者や高齢者など誰でも使いやすいようにしたいと思った。
健常者が使いやすい空間と身体障がいのある方の使いやすい空間が同じだろうか考えた。バリアフリーは段差をなくせばいいと思ったが、それでは車いすの人はしんどいと考えた。
- ・建物を東西方向に配置することで、南側に広場を設け、西側の広場とつながるようにした。
- ・ウッドデッキを利用して、建物全体を回っていけるようにした。
ウッドデッキに上がる所は、階段とベンチの両方の役割を持たせた。
畳の部分の高さは770mmで、車いすの座面の高さ。腕の力で移れるようにした。
床の間で500mmとして、高齢者は一段上ってから畳へ上げられるようにした。
- ・ふれあいリビングは、集会所とウッドデッキの部分を広くとりアプローチできるようにした。
- ・中廊下型で光が入りにくいので、片流れ屋根と陸屋根を用いてハイサイド窓を設けた。
- ・巡回管理員室の前にベンチを設け、通路が交差する部分で人が集まり会話できればと考えた。
- ・南面に垂直ルーバーを設けた。ルーバーを用いて人の行き来が中外でみえるようにした。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- ・車いすのことを考えたということだが、よくできている。
- ・残念なのが、敷地西側の広場に面して倉庫があり、広場とのつながりが弱いということ。
- ・南北と東西の動線が交わる重要なところに、巡回管理員室がある。これも考え方によっては(公共の用途として)一つの方法だが、集会所を配置するなど、周辺の文脈を読んで配置がされたらもっとよかったと思う。

(平田委員)

- ・誰もが使いやすいという考え方は、設計の基本であり、とても大切なことだと思う。
- ・シンプルな平面計画でよい。
- ・デッキで室内外が一体的に使えるのも気持ち良い空間になるのではないかなと思う。

CUBE

修成建設専門学校 1年

野口 綾子



【発表】

- 作品のテーマは、外観が四角の集合体であること、シンプルで清楚であるという印象、中にいる人が四方に心を通わせることであってほしいということで **CUBE** とした。
- 設計のポイントは5つ。①動線、②トイレの配置、③集会室と縁側、④採光、⑤中庭
 - ① 各部屋に出入り口を設けているので、互いにじゃますることなく利用できる。集会室や湯沸し室、倉庫やトイレも互いの部屋を横切ることなく利用できる。
 - ② トイレは、初めて訪れた人もわかるように、玄関近くに配置した。
 - ③ 西に面している広場の子どもの様子を集会室内から安心して見守れるようにした。広い縁側があるので、直接集会室から出入りできるようにしている。
 - ④ 電気をつけなくても自然な光を取り入れられるようにして、エコを意識した。
 - ⑤ 中庭の四方を窓にすることによって、空間の広がりを感じることがができる。中庭の周りをぐるりと回って遊ぶことができる。集会室と湯沸し室の扉を開放すれば、中庭を介して、大空間のふれあいリビングとして利用できる。
- プレゼンテーションの機会を頂いたことで、設計を見直し、以下の反省点をみつけた。入口のスロープのレイアウトの変更、集会室の扉の向きを反対にする、和室に掃出し窓を設ける、集会室の掃出し窓を大きくする、動線と採光の関係から植栽の位置を変更。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 小さな単位のキューブを組み合わせたという点に好感が持てる。
建物を大きな一つのかたまりではなく、一つ一つの部屋の性格をつかんで、それを建物高さもふまえてうまく組み合わせている。中庭の配置や動線の整理がされている。
- 窓の上に庇がないのが残念。特に西面は西日が厳しい。また雨対策としても、庇が大事。他の方々にもお願いしたい点。

(平田委員)

- もみじの中庭が特徴。窓が絵を、景色を切り取るような工夫がよい。

金の集会所

大阪府立布施工科高等学校 3年

大西 彩斗



【発表】

- 使いやすい集会所を考えていたところ、地図をみていて新金岡の「金」の文字が浮かび、「金」の文字を基に平面図を描き始めた。
- コンセプトは3つ。①建物を「金」の文字でシンメトリーに、②集会室は西側広場が見渡せるように、③高齢者・車いす・ベビーカーが使いやすいように。
- 単純に部屋を配置すると床面積がオーバーし、試行錯誤をして今の形になった。
「金」の文字はシンメトリーであり、シンメトリーは安定しやすいと習ったのでこだわった。
- 玄関は北側で、住民が使いやすく、また巡回管理員室を近くに設けた。
- 集会室は西の広場とのつながりを考え、西面をガラス扉とし縁側を設けた。
- ふれあいリビングは北側から見通せるように配置し、和室は明るい南側に配置した。
倉庫の配置に苦労した。
- ベビーカーや車いす使用者、高齢者も使いやすいようにスロープを多く設けた。
玄関の近くに、身体障がい者用トイレを配置した。
- 屋根はシンプルに切妻とした。床面積の関係から、屋根を一つでなく、3段に分割した。しかし、屋根の分割がうまくいったので、気に入っている。
- 新金岡団地の目印になり、新金岡が注目されたらいいと思う。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 西側の植栽の配置で「金」の文字を形成しているが、小さな植栽帯でなく、たとえばデッキであれば建物として「金」の文字を作れたのではないか。
- プランは極めてシンプルで、使いやすいと思う。プランの作り方が非常に上手だと思う。
- 西に向けて集会室を設けて、西側との関係をうまく考えていてよい。ふれあいリビングなどをするとき一体的として使える。
- 和室の配置が難しかったと思う。
- 西側のガラスはいいが、やはり西日対策で庇など屋根のようなものをつける、あるいはフレームを置いてテントのようなものをかけるとか、何か工夫があればよかった。

(平田委員)

- プランが明確で、わかりやすい。「金」をモチーフにするという遊び心が楽しくてよい。

優秀作品賞

風と光の集会所

大阪府立北大阪高等職業技術専門校 1年

前川 文洋



【発表】

- 自分のデザインではなく、その場所にフィットしてあるべきものとなるようにしたかった。
- 課題としては、①床面積制限と機能の両立、②高層棟に挟まれた立地環境。この2つの解き方を追究した。
- ①は、集会所 A を開放するという手法とした。集会所を縦にし、手前の集会所は廊下と一体としてアクティビティをしている横を通り抜けるようにすることで、床面積が浮いてきた。広場に対して開口部を大きくとるなどして、一体化するようにした。
- ②は、南側に高層棟があるので圧迫感があるが、風と光を主役にする事とした。
(模型写真により) 南北には高層の建物がある一方で、東西にも、上にも抜けがある。その場所に立つことで、空がきれいだと実感できるようにしたいと思った。
日影図をつくり、日影の検討を行った。
光と風が降り注いできやすい建物の形状と配置を考えた。
高層棟からの影の位置を考慮し、できるだけ光を受け取りやすい形状にした。
- この2つについて自分なりに解決できて、この場所に合った形になったと思う。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 南側に 14 階建ての棟があるが、日陰の検討をされている。敷地に日が当たるのは何時からかシミュレーションされている。また、部屋の両面が開口部となっていて風が抜けるなど、光や風に対して大変考慮されている。
- 1 点残念だったのは、西側の広場とつながる大事な空間に、建物に入る玄関があり、それに至る動線があること。この空間は、集会所から和室をデッキとかでつなげて一体として使えるなどしたら、より良かったのではないかと。玄関は北側からでもよかったのではないかと。また、西日対策も考えておいてほしかった。

(平田委員)

- 風や光をテーマとしている点、曲線を用いて親しみやすさ・愛着心を生み出している点が良い。

優秀作品賞

みんなが集うところ

大阪工業技術専門学校 3年

松本 由衣 ・ 久留島 裕也



【発表】

- 従来の集会所は、行事のみに使用されていて、普段は閉ざされているイメージを持っていた。そこで、いつでも気軽に立ち寄れる、開かれた集会所にしたいと思った。
- 敷地に対して要求された建物のボリュームをおき、人の流れを考えた。人の流れを遮らず、周辺の建物の日影も考慮して、建物の配置計画をした。人の流れをゆるやかに取り込む曲線を設けた。
- だれでも気軽に立ち寄りみんなが休憩する、広場で遊ぶ子どもを見ながら親同士の会話がはずむ、壁をへこませることで居場所ができる、といった場やシーンが生まれた。
- メインの集会室を広場と人通りに面して設けて、ふれあいリビングは外部とのつながりを意識した。和室は東側に配置し、集会室とウッドデッキと一体利用できる。水回りと巡回管理員室は利便性を重視した動線配置計画とした。
- 周辺の曲線はルーバー状にすることで、視線の抜けや人の気配を感じられるようにした。
- 屋根は軽く見せるためにできるだけ薄くし、平面の流れを感じられるよう曲線を用いた。
- 開口部は大きくして、縦のフレームがみえないようにした。
- ルーバーは、曲線にすることで、高さがあっても圧迫感がないようにした。また、屋根と一体とすることで、内と外の間のような空間とした。人と人との交流から、住民や周辺へ広がり、地域のランドマークとなる建物をつくった。

【質疑応答】

(受賞者：高田さん)・ルーフと壁との間があいているが、どうなっているのか。

(久留島さん)・ガラスを入れている。できるだけ屋根を薄くして柱をみえないようにした。

(大坪委員長)・受賞者の中で唯一、二人での共同作品。うまくいった点、大変だった点は。

(久留島さん)・二人の意見があったが、コンセプトを決めてからはうまくいった。

(大坪委員長)・設計は一人ではできないので、色んな意見をまとめていくのは大切。

- 曲線を考えたのはどちらか。

(久留島さん)・私。壁が同じ高さで回っていると圧迫感がある。高さを曲線で変えることでみえたりみえなかったりの関係が生まれる、ルーバーにすることで抜けをつくることを意識。

(大坪委員長)・東西方向と南北方向の団地内の動線が交わる場所に、集会室やふれあいデッキがあるので、きちっとその文脈を読んでいる。

- 玄関の位置が奥まっております、もう少し工夫すれば魅力的な空間になるだろう。

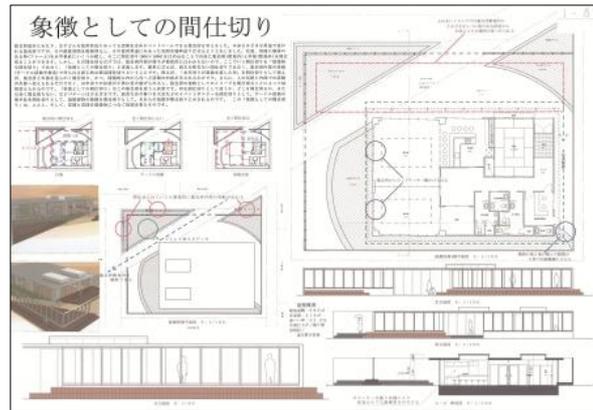
(平田委員)

- プランはシンプルだが、それをルーバーで囲み、優しいものになっている。実際につくるとなると、コストもかかってくるが、提案としてはよいと思う。

象徴としての間仕切り

大阪市立都島工業高等学校 3年

井上 祥生



【発表】

- 人の集まる集会所を考えた。人を呼びやすいことを考えた。
 - ①自然と人が足を運ぶようなアプローチや建物の配置、②集会所を利用する方の視線がつながる連続性のある空間、③使用用途に合わせて空間を有効に使えることを考えた。それらにより、集会所の使い方に色々な可能性が生まれると考えた。
- ①は、北東の団地内通路を集会所の敷地内に貫き、よりみち感覚で訪れるようにした。集会所の北と西の団地内通路の交点に、ウッドデッキを設け、内部と外部の通りのアクセントとした。舞台やステージとして使え、宴会や冠婚葬祭の行事にも使える。休憩スペースを設けることで、交流の幅を広げることができる。
- ②は、集会所の使用者の視線がつながることが有効と考えた。和室と湯沸し室、集会室を一つの空間にもでき、開口部を全開にすれば広場と集会室が一体となる。
- ③は、北と西のフレームを使って、内外を間仕切ることによって様々な集会所の使い方ができる。通路を通る人の気配を内側で感じる、また集会所を彩るという面でも役に立つ。間仕切りは、集会所の活動で作られたものをフレームに取り付ける。行事のポスターなど。
- この間仕切りによって、使い方次第で様々なことが可能。集会所のデザインが変わり、集会所が様々な顔をみせ、まさに象徴となる。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 団地内の主要な動線である南北方向と東西方向の動線の交点にステージがあり、それを使って色んなことができるようになっている。その点は、集会所の位置の文脈を読むという点で優れている。
- スクリーンも色んな使い方ができ、新しい提案がなされている。腰壁はなくていいのでは。
- プランも使いやすく、うまく整理されている。
- 和室について、キッチンとつなげたいという意図はわかるが、うまくいくだろうか。玄関との位置関係を変えて、和室に静かな庭を設けてもよかったかもしれない。

(平田委員)

- 敷地に斜めに通路を入れて、デッキを設けている点や、間仕切りのパターン化が独創的。

広場とつながった明るい集会所

大阪建設専門学校 2年

水口 伸一郎



【発表】

- 使い勝手がいいように、できるだけ整形にした。
- 最短の動線で、最大限に部屋を設けることとし、3×6の18グリッドを用いて配置した。
- 西に広がる団地内を走る南北の主動線に面して、湯沸し室+テラスを設けた。
西から湯沸し室+テラス、玄関+集会室、管理・衛生・和室と3つのブロックに分けた。
- 西に開かれた集会室の天井部分は、できるだけ自然採光が得られるように、天井の壁側に窓を設置した。
- 試行錯誤の結果、うまくまとめることができた。
- 大工見習いの経験があるが、専門学校に通っていてまさか受賞するとは思わなかった。サポートいただいた先生方に感謝します。

【質疑応答】

(大坪委員長)

- 平面プランが非常によく考えられている。試行錯誤されたことが表れている。
- 西側の広場に面して、テラスと集会室をつくっている。
フレームがあり、西日を遮ることもできそう。
- 集会室を2つに分割して使用することに支障がない。
- 和室の入り方がせせこましいので、改善すべき。
- この案において、これまでの経験が活かされているところは。

(水口さん)

- 集会所に入ったことがあり、イメージしながら感覚で、使い勝手を考えて計画した。

(大坪委員長)

- 使い手側の身になって考えることはとても大切。管理する側としても、とてもやりやすいものになっていると思う。

(平田委員)

- 西側の広場と一体で利用でき、フレームにより西日対策になりえるのが特徴となっている。
- 趣旨を活かして、実際に建てることのできるということで選ばれている。
実際には天井を張っていないことをどうするか等、今後調整が必要となる。

全体講評

審査委員長

武庫川女子大学生活環境学部

生活環境学科 教授

大坪 明



- 受賞された皆様改めておめでとうございます。
プレゼンテーションをしていただき、考えられたことがよく伝わってきました。
- 今回の応募作品は 200 点弱であったが、この受賞された作品は、地域の特性というものをそれぞれによくとらえられている。
また、設計者の思いだけでなく、使い手側の視点、どうすれば使い手側が使いやすいかということをよく考えられた作品が受賞されている。
- 過去の作品の中には、設計者の思いが強く、使い手側がうまく使えないこともあった。
それで、近年はより長く愛着を持ってもらえる作品を選ぶという方向に変わってきている。
管理のしやすさなどに重きをおかれるところもあるが、一方で、こんな使い方はどうか？
こんなことも提案してみたい、という案があることも素晴らしいこと。
- それにもまして、使い勝手の点では、庇や西日対策の点など、使う側の身になって考えたときに、予測をしてそれを設計に盛り込んでいくことがとても大切。
こういう使い方がされたらどうか？と想像し、あらかじめ設計に盛り込んでおくことにより、使い勝手のいい作品になっていく。
使う立場に立って、色んなことに対して、気をつかっていくことをやっていただきたい。
それを心がけて、できるだけいい作品をつくっていただきたい。
- また、周りの状況をもっと考えてほしい。応募作品の中では、周りを考えておらず、敷地の中しか考えていないと感じる作品も見受けられた。
設計の際には、まず配置図において、周辺の建物も全部描いてほしい。それを描いた上で、
どういう建物がふさわしいかと考えて設計してほしい。
この点は、本日来場された生徒・学生を指導されている先生方にもご指導をお願いしたい。
- 受賞された方々は大変優秀な成果を提示された。大変嬉しく思う。これからもご活躍を期待したい。